Tell me, maestro

マエストロに聞く

大原國章

OHARA　Kuniaki
赤坂虎の門クリニック皮膚科

小児の脈管異常治療の変遷
―乳児血管腫と毛細血管奇形―

これまで血管腫・血管奇形分野には統一した疾患概念や治療方針が存在しなかったが，近年，国際学会による整理・分類が行われ，これを機に国内でもガイドライン作成や内服治療の保険適用等，臨床の場に新たな流れが生まれている．今後は，美容医療領域でも脈管異常の知識やスキルが不可欠になることが予想される．赤坂虎の門クリニック皮膚科の大原國章先生に，小児の脈管異常治療の変遷と今後の課題について，お話を伺った．

疾患概念を再編成したISSVA分類

疾患の呼称が変更になった経緯について教えてください．

Vascular anomaly（脈管異常）は，長年，習慣的に「血管腫」と呼ばれてきましたが，病態が多彩で，関係する診療科も多いことから混乱が生じていました．そのようななか，ISSVA（the International Society for the Study of Vascular Anomalies；国際血管奇形研究学会）が創設され，疾患概念の整理や系統的な分類が行われました．そして血管内皮細胞の増殖性変化を有する「乳児血管腫」と，増殖性変化はみられず，局所的な異常拡張・形態異常である「脈管奇形」について，「腫瘍」と「奇形」の観点で分類・再編成がなされました．これがISSVA分類です．国内でも2013年にISSVA分類に基づく「血管腫・血管奇形診療ガイドライン」が作成され，2017年には新知見を追加し改訂されました．このような変遷のなかで，「いちご状血管腫」は「乳児血管腫」へ，「port wine stain（ポートワイン母斑）」は「毛細血管奇形」へと疾患名が変更されています．

血管異常に関係する疾患の種類 ～乳児血管腫と血管奇形～

代表的な血管腫や血管奇形について，その好発部位も含めて教えてください．

代表的な血管腫には「乳児血管腫」が，血管奇形には「毛細血管奇形」が挙げられます．いずれも身体のどの部位にもできます．顔の症例が多いのは，顔にあると目立つので，嫌でも気になり受診することが多いためだと思います．

代表的な血管腫である「乳児血管腫」の病態の特徴について教えてください．

乳児血管腫は，多くの場合，出生後1カ月以内に出現し，その後急速に増大し，生後1年を超える時期から自然消褪をはじめる良性の血管性腫瘍です．血管だけではなく，血管内皮細胞数も増えるため，急速に隆起して赤い腫瘤を形成します．基本的に色がツヤツヤして，一部の症例では腫瘤表面に顆粒状の凹凸が多発し，外観がいちごのように見えるため，以前は「いちご状血管腫」と呼ばれていました．

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.